

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (獅子舞 約40cmの高さ)

- (1) 全く動かない。
- (2) 正常な動きは、笛太鼓に合わせて踊る。
- (3) 電池点検する。電池3本新品
- (4) 約20cmの獅子舞と比べると、すごく大きく見える。
構造も丈夫に出来ている。



2 診察及び治療の方法

- (1) 内部診察のため衣装で頭を包むように捲り上げて、最初に気づいたのは、図-1の頭部と胴体を繋ぐ「ピン」が右の支えから抜けていた。このまま使い続けておれば、左の支えは折れたと思う。

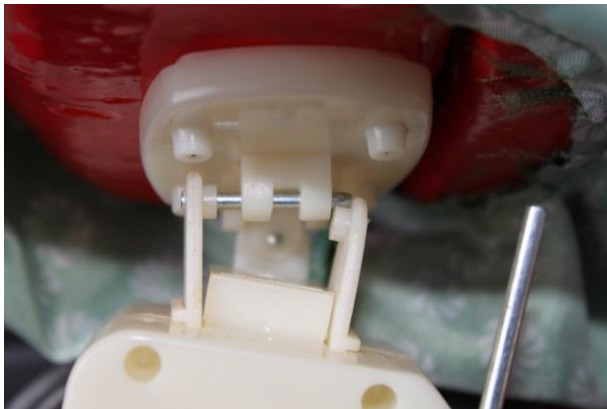


図-1 ピンが抜けて右の支えが役に立っていない



図-2 治療後の正常な状態

- (2) 頭部を外して、胴体の歯車部を3ブロックに分解(図-3)して、直ぐに気づいたのは、ベルトが切れていたことだ。図-4 これは後で治療することにする。
- (3) ベルトが切れることは、何らかの大きな抵抗があったのかも知れない。歯車も欠けているかも知れないと思い、タププリ付いていたグリースをキレイに拭取り点検したが大丈夫だった。

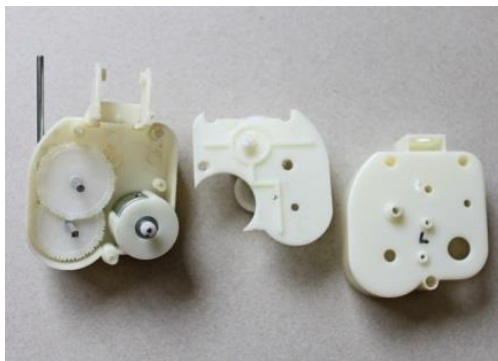


図-3 胴体部の分解

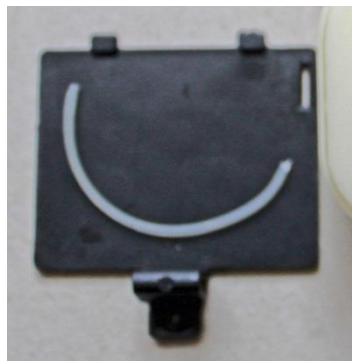




図-4 切れていたベルト



図-5 全歯車のチェック

- (4) 図-6の黄色い箇所に重りの鉄棒(直径1.4cm長さ5cmくらい)の固定が外れてコロコロしていた。これは、ボンドで動かないように固定した。
- (5) スピーカーの点検はOKだった。ICの良否の点検をベテランドクター(元高専教授)の方に依頼して調べて頂いたが、異常はなかった。

- (6) 頭部を左右に傾ける仕組み(図-7 ) が、よろしくないのがお分かりと思います。
 2 の下の方が開き、上の方が接触過ぎて抵抗が多く、テスト時 3 V の電源では回転がとまり動かなくなった。4.5 V では回転するが、抵抗が多すぎモーターに無理が生じている。本体側の角をヤスリで研磨(研削)して少しは滑らかになった。

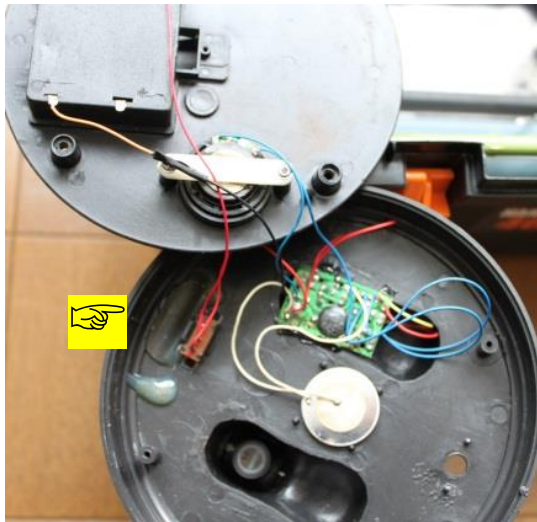



図-6 外れていた鉄棒のあった箇所



図-7 頭部を左右に傾ける仕組み



図-8 工夫した部品

- (7) 図-7 の  1 の連結部の間隔も連結部品の厚さ分、堅い竹材で部品を作り、よりスムーズに作動する用に工夫した。止めネジもナット付のネジに替え、ボンドで緩まないようにした。
- (8) 最後に、切れていたベルトをウレタン線(Φ1.5mm)で加工して組立て完成させた。図-9

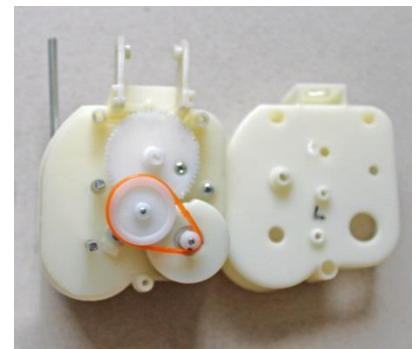
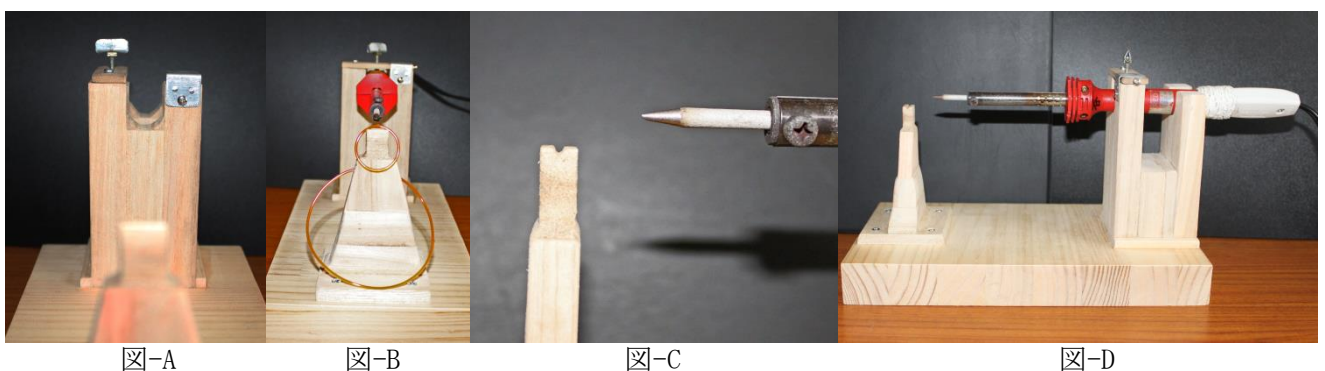


図-9 ウレタン製ベルト

3 ウレタンベルト加工器具の紹介



ウレタンベルトを作るのに、まず加工器具から手作りした。「ウレタンオレンジベルトΦ1.5mm 長さ10m」を8.2cmに切り、両端を半田ごてで熱してから、瞬時に図-C 左の小さな溝の台の上に運び両端の面を合わせて接着させ、冷えて固まるまで待つ。簡単に加工することが出来ます。

お渡しした日： 平成28年4月吉日
 担当ドクター： 谷 春 雄